

宮城県商工区地中小企業景況調査報告書

2020年1月～3月期

目次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

2020年4月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

2020年1月～3月

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内10商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市商工会、大河原町商工会、みやぎ仙台商工会、くろかわ商工会、加美商工会、遠田商工会、若柳金成商工会、みやぎ北上商工会、石巻かほく商工会、本吉唐桑商工会
- (2) 対象企業数 150企業
- (3) 回答企業数 149企業

2. 調査対象期間

2020年1月～3月期を対象として、調査時点は2020年3月1日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	31
建 設 業	26
小 売 業	44
サービス業	48
合 計	149

5. そ の 他

本報告書中のD Iとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

(1) 主要景況項目のあらまし

① 業況D I の状況と来期見通し

県下商工会地区における今期(2020年1月～3月期)の調査において、産業全体(全産業)の業況D I(前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期より△1.8ポイントの悪化で△39.9(前期△38.1)となった。産業別にみると、製造業が△20.7(前期△37.5)と16.8ポイント改善、建設業で△34.7(前期△28.0)と△6.7ポイント悪化、小売業で△67.5(前期△61.4)と△6.1ポイント悪化、サービス業では△28.9(前期△21.8)と△7.1ポイントの悪化となった。

来期見通しについては、産業全体(全産業)としては改善の見通しである。産業別では、製造業、小売業で改善、建設業、サービス業で悪化の見通しである。

表一1 業況D I の状況と来期見通し (前年同期比・D I)

業種	前期	今期	来期見通し
全産業	△ 38.1	△ 39.9	△ 35.9
製造業	△ 37.5	△ 20.7	△ 16.7
建設業	△ 28.0	△ 34.7	△ 40.0
小売業	△ 61.4	△ 67.5	△ 53.7
サービス業	△ 21.8	△ 28.9	△ 30.5

② 設備投資の状況と来期計画

新規投資の実施比率は、製造業では6.5%で前期比0.3ポイント増加、建設業では15.4%で前期比△0.6ポイント減少、小売業では6.8%で前期比△2.3ポイントの減少、サービス業では4.2%と前期比△12.5ポイントの減少であった。

来期に設備投資を計画している企業は、今期に比べ製造業で増加、建設業で横ばい、小売業で減少(計画なしへ)、サービス業では増加となっている。

表一2 設備投資の状況と来期計画 (企業割合・%)

業種	前期	今期	来期計画
製造業	6.2	6.5	12.9
建設業	16.0	15.4	15.4
小売業	9.1	6.8	0.0
サービス業	16.7	4.2	18.7

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

2020年3月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は前期(2019年12月調査)と比較して、製造業が△6ポイント悪化のマイナス15、非製造業は△8ポイント悪化のマイナス1だった。先行きは製造業、非製造業共に今期に比べ悪化を見込んでいる」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では製造業で改善、建設業・小売業で悪化、サービス業で横ばいとなった。

今期の宮城の全国・東北との売上額D I比較では、製造業・サービス業で全国・東北以上、建設業・小売業で全国・東北以下であった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況 (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 26.4	△ 38.3	△ 40.6	△ 42.0	△ 34.4	△ 16.1
建 設 業	△ 6.4	△ 10.9	△ 19.6	△ 19.4	△ 24.0	△ 27.0
小 売 業	△ 42.1	△ 42.5	△ 54.3	△ 57.3	△ 63.7	△ 72.8
サービス業	△ 25.2	△ 31.8	△ 29.9	△ 32.5	△ 27.7	△ 27.7

② 採 算

宮城の今期の採算D Iも、全業種でマイナス値であった。前期との比較では、製造業・建設業・小売業で改善、サービス業で悪化となった。

今期の宮城の全国・東北との採算D I比較では、製造業では全国・東北以上、建設業・サービス業で全国以下、東北以上、小売業では全国・東北以下であった。

表－4 採算の状況 (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 27.4	△ 35.8	△ 40.1	△ 45.9	△ 40.7	△ 35.4
建 設 業	△ 12.2	△ 14.1	△ 21.6	△ 26.6	△ 40.0	△ 19.2
小 売 業	△ 35.3	△ 38.7	△ 44.8	△ 50.2	△ 61.4	△ 59.0
サービス業	△ 25.7	△ 32.5	△ 33.5	△ 38.8	△ 30.5	△ 32.7

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（2020年4月～6月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業で12.9ポイントの改善、建設業で△26.8ポイントの悪化、小売業で13.7ポイントの改善、サービス業でも4.8ポイントの改善の見通しとなった。

採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で若干の悪化、建設業で△11.6ポイントの悪化、小売業で6.6ポイントの改善、サービス業で3.0ポイントの改善見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では売上は全国で若干の悪化、宮城で改善、採算では全国で悪化、宮城で若干の悪化の見通しとなった。建設業では売上は全国・宮城で悪化、採算でも全国・宮城で悪化の見通しとなった。小売業では売上・採算共に全国で悪化、宮城で改善の見通しとなった。サービス業では、売上は全国で悪化、宮城で改善、採算では全国で若干の悪化、宮城で改善の見通しとなった。

表－5 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 38.3	△ 38.7	△ 16.1	△ 3.2
建設業	△ 10.9	△ 19.7	△ 27.0	△ 53.8
小売業	△ 42.5	△ 48.0	△ 72.8	△ 59.1
サービス業	△ 31.8	△ 35.0	△ 27.7	△ 22.9

表－6 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 35.8	△ 36.9	△ 35.4	△ 35.5
建設業	△ 14.1	△ 18.1	△ 19.2	△ 30.8
小売業	△ 38.7	△ 39.9	△ 59.0	△ 52.4
サービス業	△ 32.5	△ 33.2	△ 32.7	△ 29.7

2. 県下産業別の景況

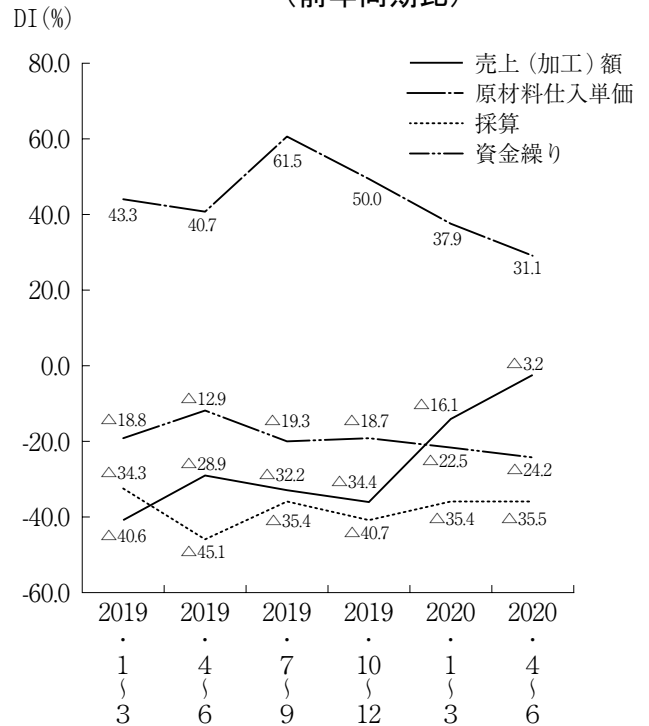
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△16.1（前期△34.4）となり18.3ポイント前期より改善、採算D Iは今期△35.4（前期△40.7）で5.3ポイント改善、資金繰りD Iでは今期△22.5（前期△18.7）で△3.8ポイントの悪化となった。

原材料仕入単価は今期37.9（前期50.0）と△12.1ポイント下落した。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



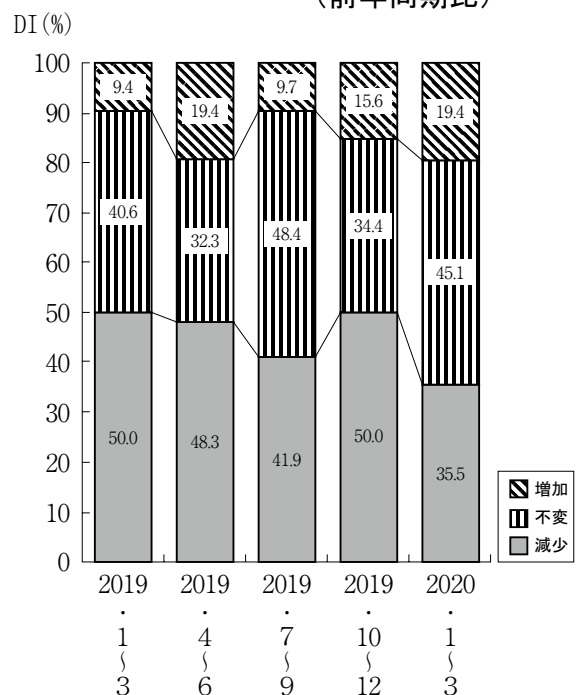
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「増加」と回答した企業は、全体の19.4%（前期15.6%）と3.8ポイント増加、「減少」と回答した企業は35.5%（前期50.0%）と△14.5ポイント減少した。

その結果、売上（加工）額D Iは△16.1（前期△34.4）となり前期比18.3ポイント改善した。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

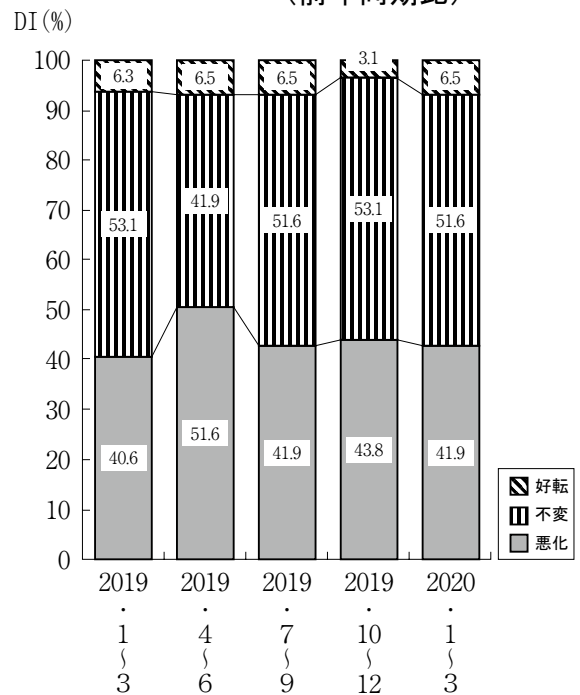


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 6.5% (前期 3.1%) で 3.4 ポイント増加、「悪化」と回答した企業は 41.9% (前期 43.8%) で Δ 1.9 ポイント減少した。

その結果、採算DIは Δ 35.4 (前期 Δ 40.7) で前期より 5.3 ポイント改善した。

図 1-3 採算の状況
(前年同期比)



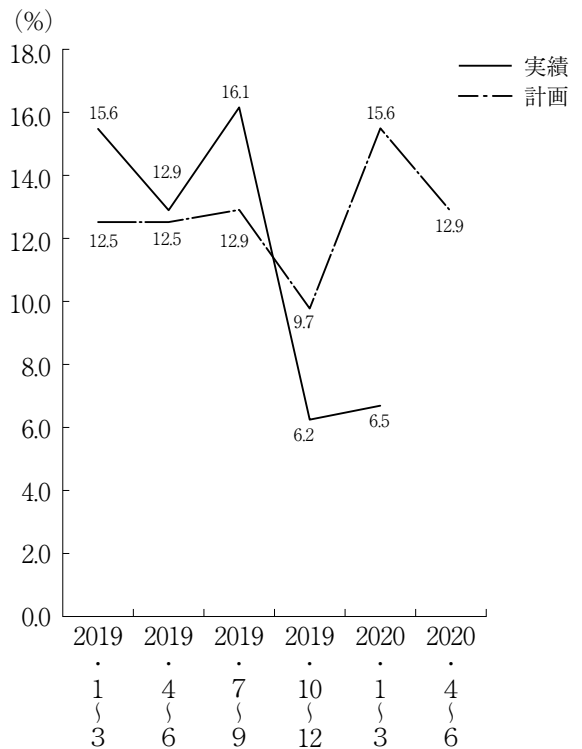
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は全体の 6.5% (前期 6.2%) で、前期と比べ 0.3 ポイント増加した。

その設備内容は、生産設備、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 12.9%で、その設備内容は、工場建物、生産設備となっている。

図 1-4 設備投資の状況

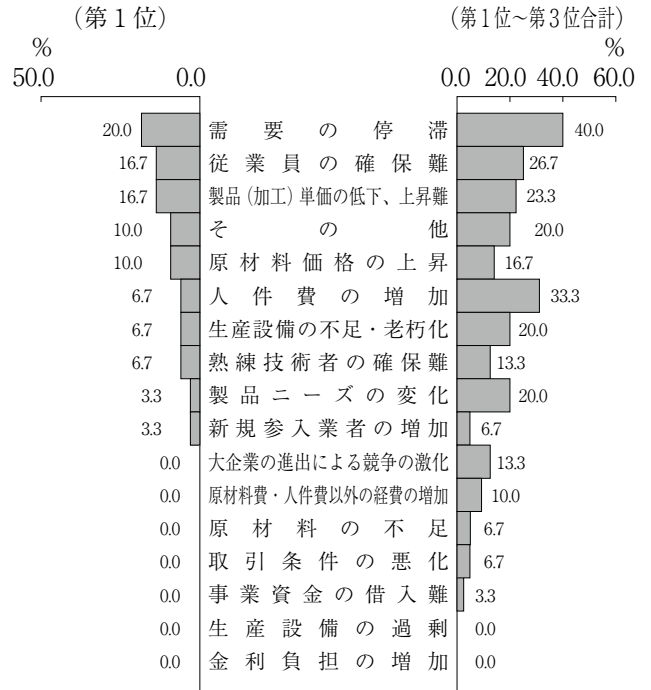


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「需要の停滞」で20.0%、次いで「従業員の確保難」と「製品（加工）単価の低下、上昇難」が同率16.7%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも「需要の停滞」が40.0%（複数回答計、以下同じ）で最上位、次いで「人件費の増加」が33.3%、「従業員の確保難」が26.7%で続いた。

図1-5 経営上の問題点

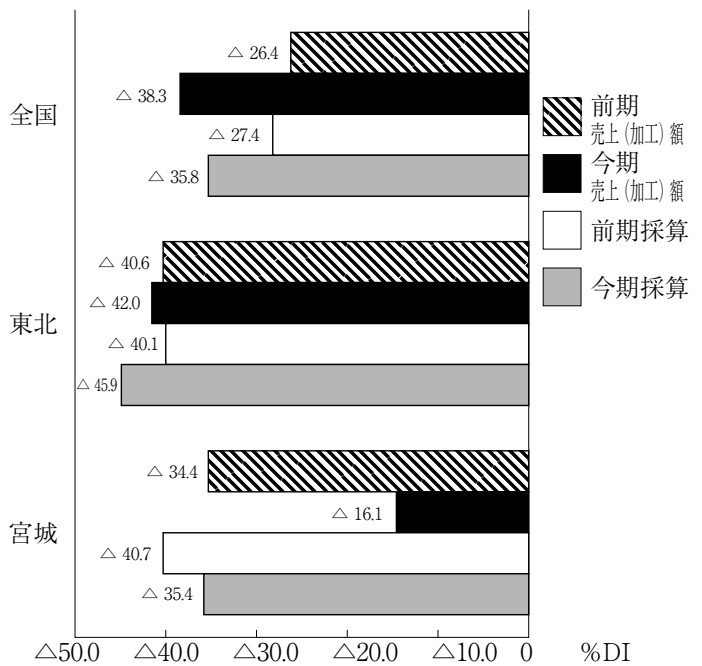


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では売上（加工）額D I では全国、東北で悪化、宮城で改善した。その悪化度は、全国、東北の順であった。採算D I の比較でも全国、東北で悪化、宮城で改善した。その悪化度は、全国、東北の順であった。

本県回答事業者からは「工場の作業員の入院で生産に支障が発生」（菓子製造業）や、「新型コロナウイルスの影響で中国の生産が不安定になり部品調達に影響」（電子機器部品組立業）などのコメントがあった。

図1-6 全国東北宮城売上（加工）額・採算比較（前年同期比）



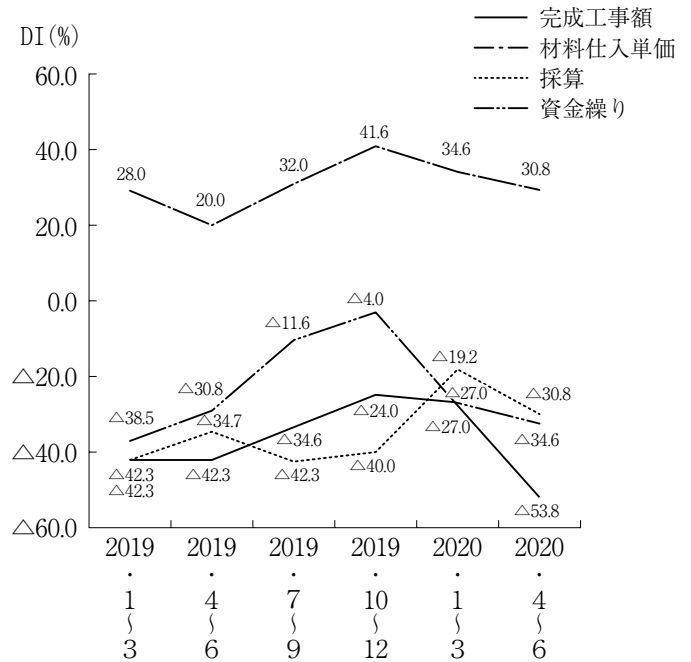
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△27.0（前期△24.0）と△3.0ポイント悪化、採算D Iは今期△19.2（前期△40.0）で20.8ポイント改善、資金繰りD Iは今期△27.0（前期△4.0）と△23.0ポイント悪化した。

材料仕入単価D Iは今期 34.6（前期 41.6）と前期より△7.0ポイント下落した。

図 2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



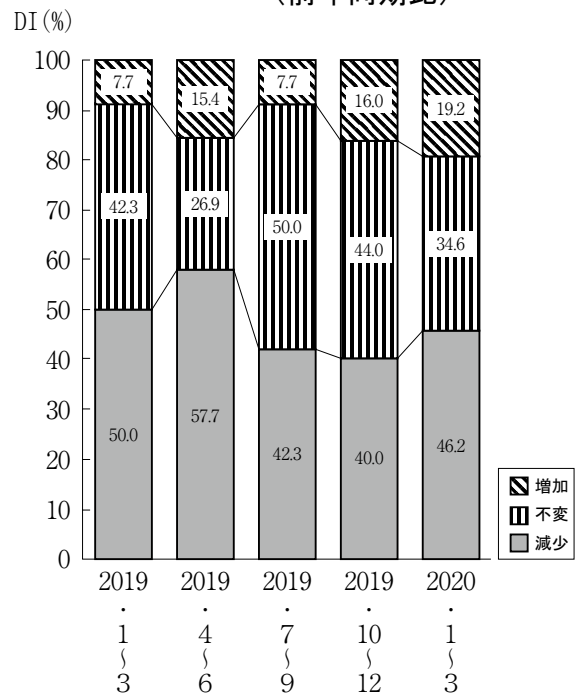
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の 19.2%（前期 16.0%）で 3.2ポイント増加、「減少」と回答した企業も 46.2%（前期 40.0%）で 6.2ポイント増加した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△27.0（前期△24.0）と△3.0ポイント悪化した。

図 2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

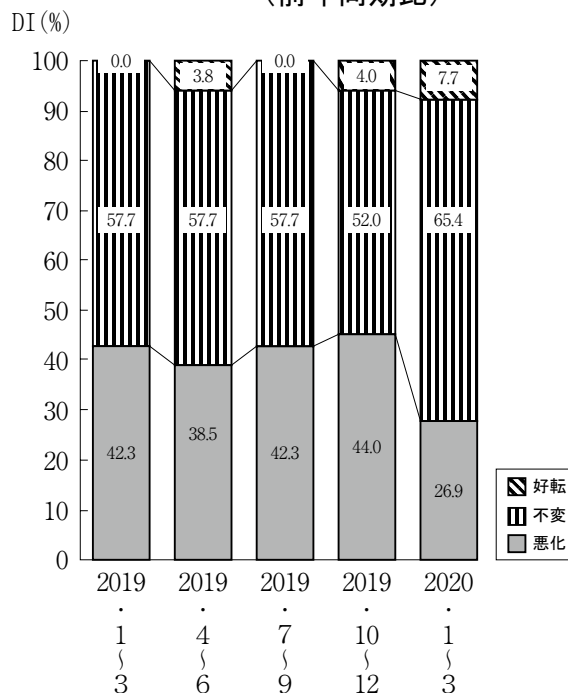


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 7.7% (前期 4.0%) で 3.7 ポイント増加、「悪化」と回答した企業は全体の 26.9% (前期 44.0%) で△17.1 ポイント減少した。

その結果、採算DIは△19.2 (前期△40.0) と前期より 20.8 ポイント改善した。

図 2-3 採算の状況
(前年同期比)



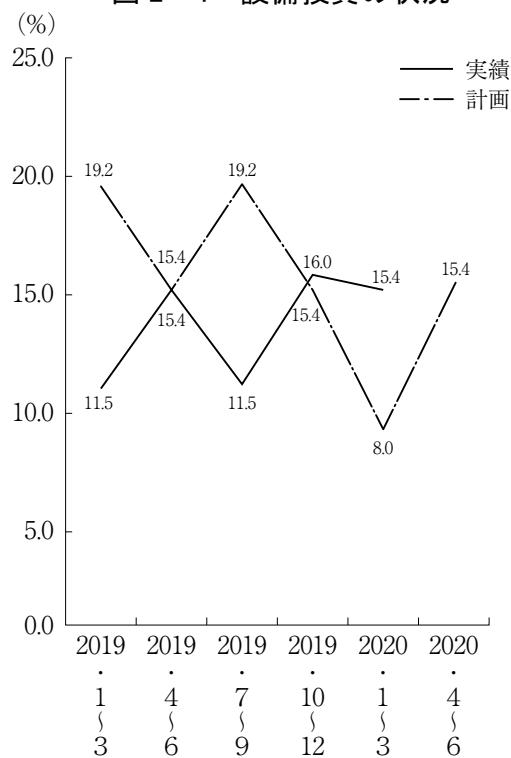
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は全体の 15.4% (前期 16.0%) で、前期より△0.6 ポイント減少した。

その設備内容は、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 15.4%で、その設備内容は、建物、建設機械、車両・運搬具、付帯施設、OA機器となっている。

図 2-4 設備投資の状況

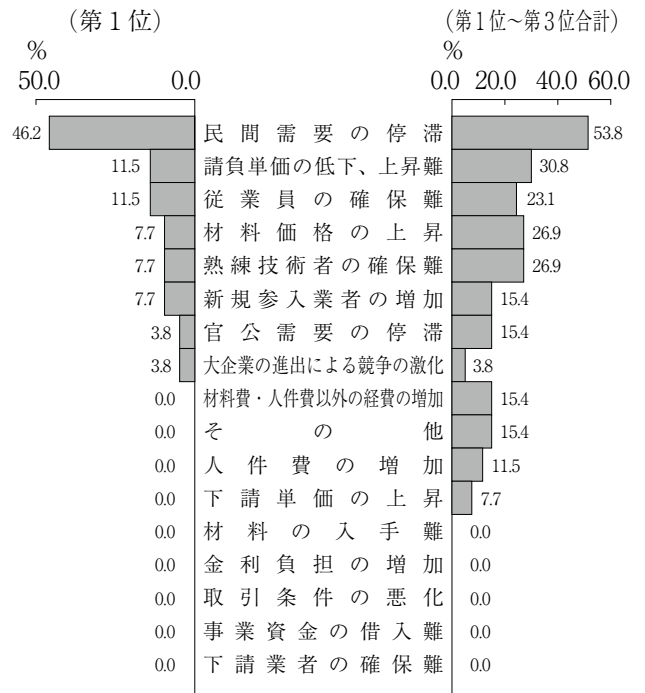


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「民間需要の停滞」が46.2%で、次いで「請負単価の低下、上昇難」と「従業員の確保難」が同率11.5%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも、「民間需要の停滞」が53.8%（複数回答計、以下同じ）で最上位、次いで「請負単価の低下、上昇難」が30.8%、「材料価格の上昇」と「熟練技術者の確保難」が同率26.9%で続いた。

図2-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、完成工事額D I は全国、宮城で悪化、東北で若干改善した。

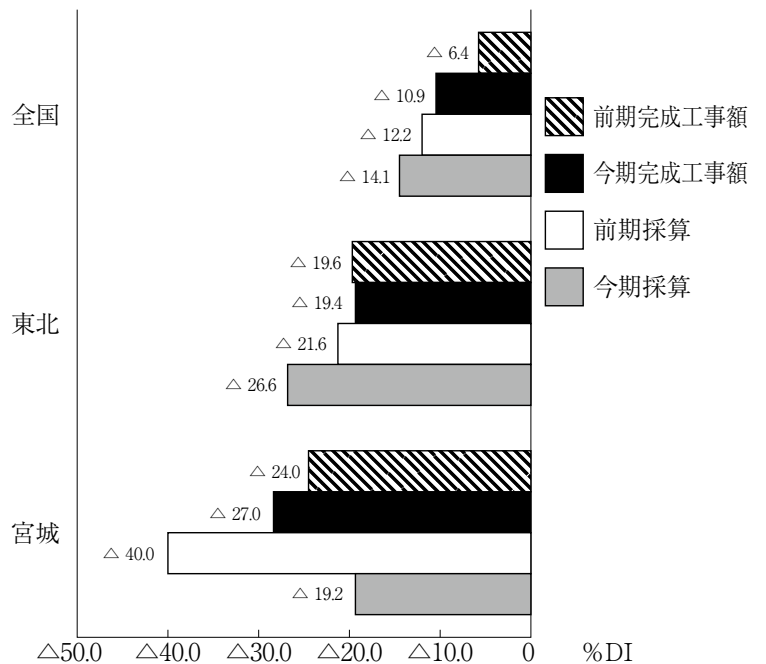
その悪化度は全国、宮城の順であった。

採算D I の比較では、全国、東北で悪化、宮城で改善した。

その悪化度は東北、全国の順であった。

本県回答事業所からは「新型コロナウイルスの影響で部材の入荷遅れ」や「年々仕事量が減少」などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城完成工事額・採算比較（前年同期比）



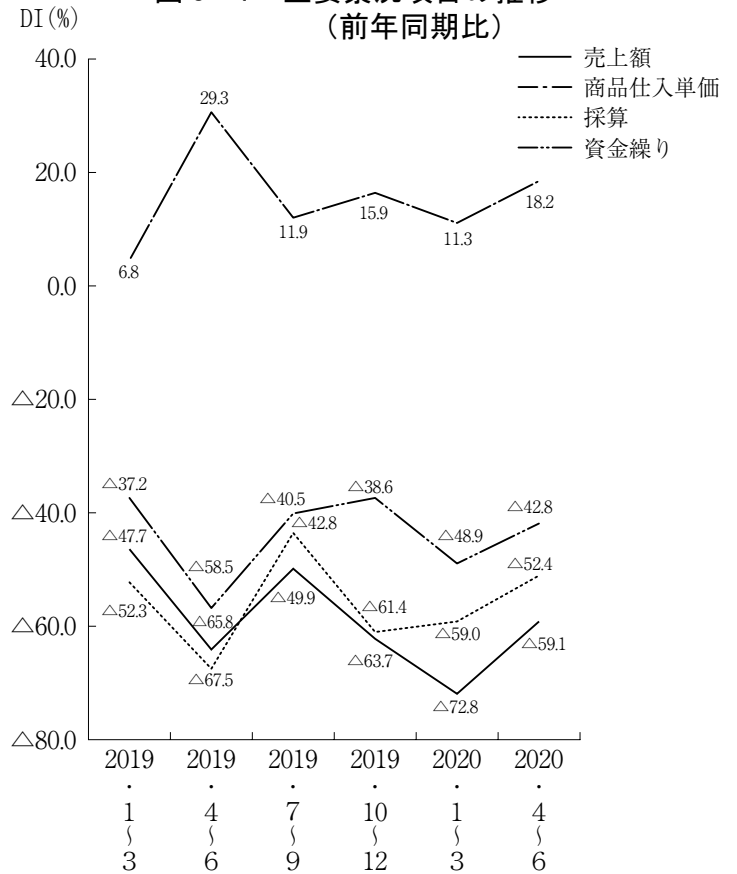
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは今期△72.8(前期△63.7)と前期より△9.1ポイント悪化、採算D Iは今期△59.0(前期△61.4)で2.4ポイント改善、資金繰りD Iでは今期△48.9(前期△38.6)で△10.3ポイント悪化した。

商品仕入単価D Iは今期 11.3(前期 15.9)となり、△4.6ポイント下落した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



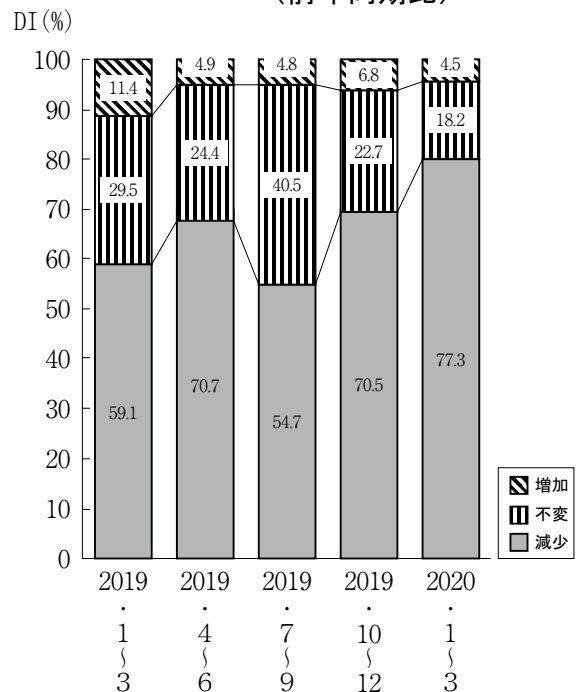
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の4.5%(前期6.8%)で△2.3ポイントの減少、「減少」の回答は、今期は全体の77.3%(前期70.5%)で6.8ポイント増加した。

その結果、売上額D Iは今期△72.8(前期△63.7)と前期より△9.1ポイント悪化した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

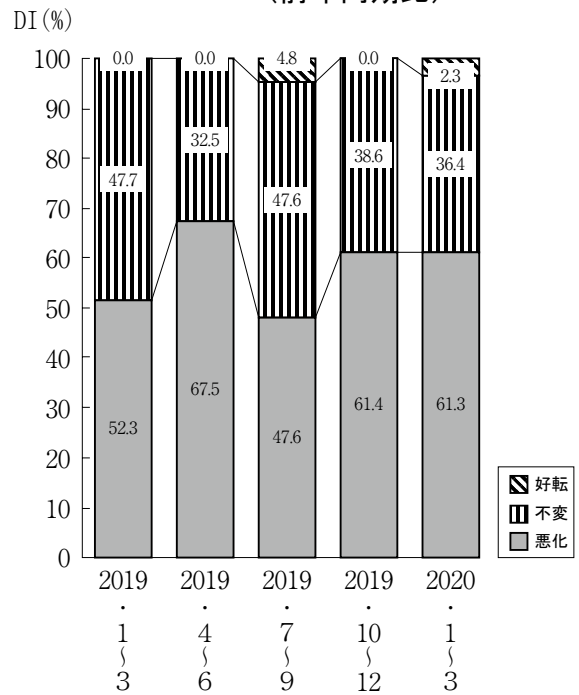


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の2.3%（前期 0.0%）と2.3%増加、「悪化」の回答は、今期は全体の61.3%（前期61.4%）で△0.1ポイント減少した。

その結果、採算DIは今期△59.0（前期△61.4）で、前期より2.4ポイント改善した。

**図 3-3 採算の状況
(前年同期比)**



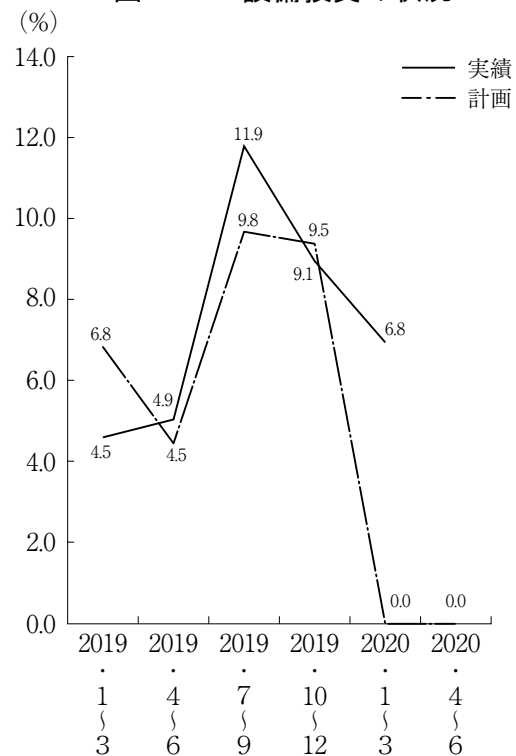
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の6.8%（前期9.1%）で、前期より△2.3ポイント減少した。

その設備内容は、店舗、販売設備、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は0.0%（計画無し）となっている。

図 3-4 設備投資の状況

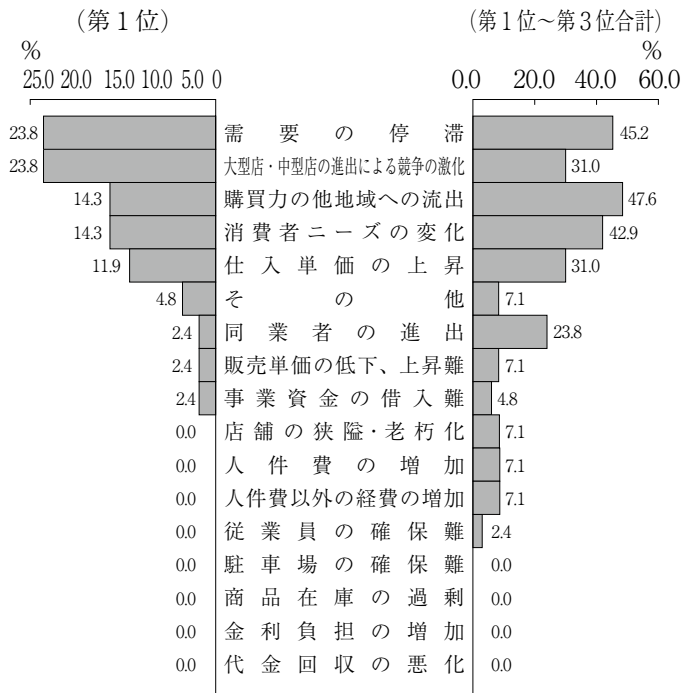


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「需要の停滞」と「大型店・中型店の進出による競争の激化」が同率23.8%、次いで「購買力の他地域への流出」と「消費者ニーズの変化」が同率14.3%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「購買力の他地域への流出」が47.6%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「需要の停滞」が45.2%、「消費者ニーズの変化」が42.9%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では、売上DIは全国で若干の悪化、東北、宮城で悪化した。

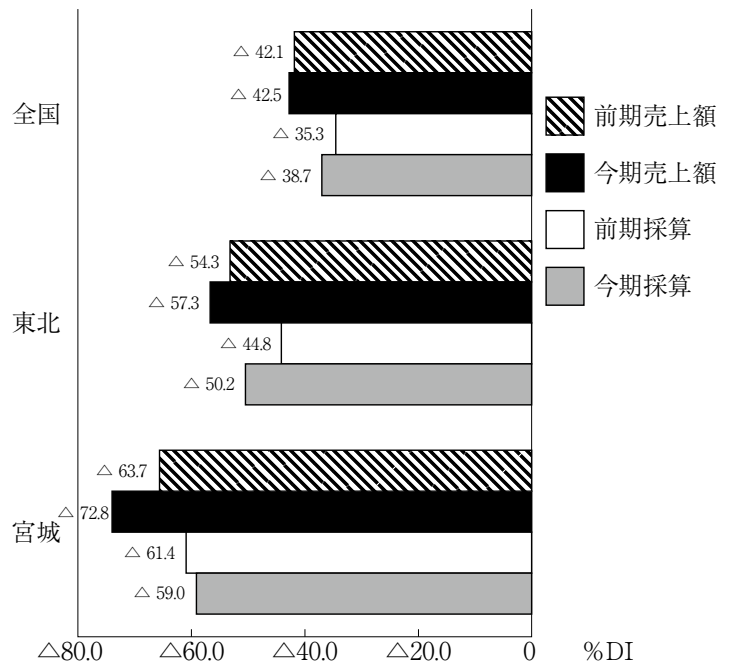
その悪化度は宮城、東北の順であった。

採算DIでは全国、東北で悪化、宮城で改善した。

その悪化度は東北、全国の順であった。

本県回答事業所から「震災後の移転先に人が戻りつつあるので今後に期待」（生花販売）や「キャッシュレス対応に苦慮」（青果販売）などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較（前年同期比）



(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iは今期△27.7（前期△27.7）で横ばい、採算D Iは今期△32.7（前期△30.5）で△2.2ポイント悪化、資金繰りD Iでは今期△15.6（前期△19.6）で4.0ポイント改善した。

利用客数D Iは今期△30.4（前期△37.0）で6.6ポイント上昇した。

② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の8.5%（前期14.9%）で前期より△6.4ポイント減少、「減少」の回答も今期36.2%（前期42.6%）で△6.4ポイント減少した。

その結果、売上（収入）額D Iは今期△27.7（前期△27.7）で横ばいであった。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)

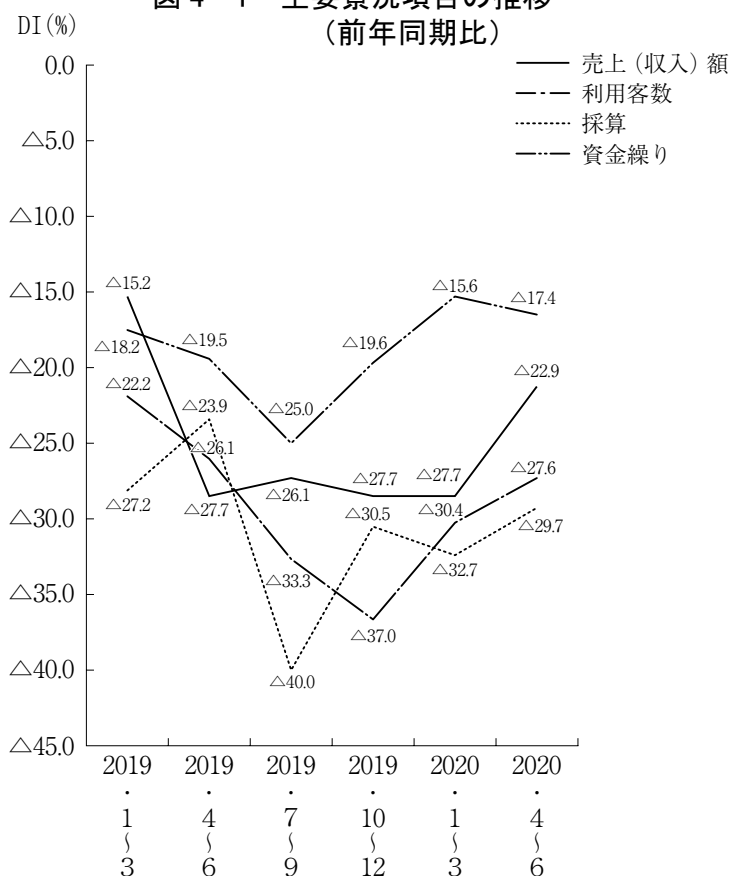
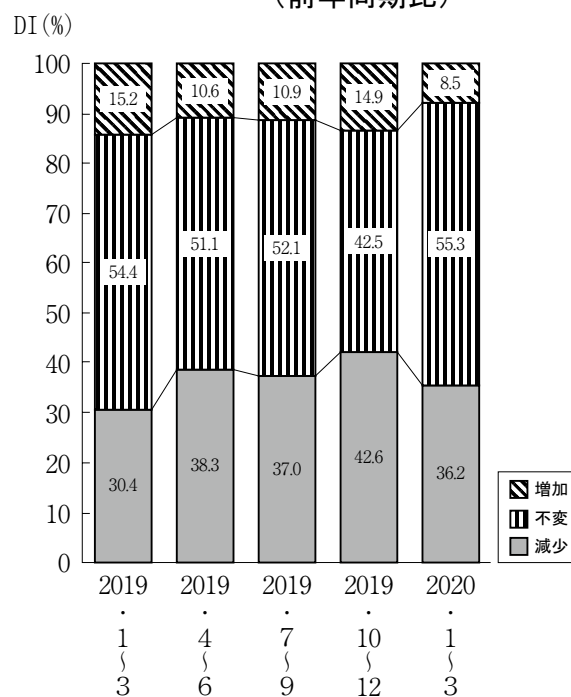


図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

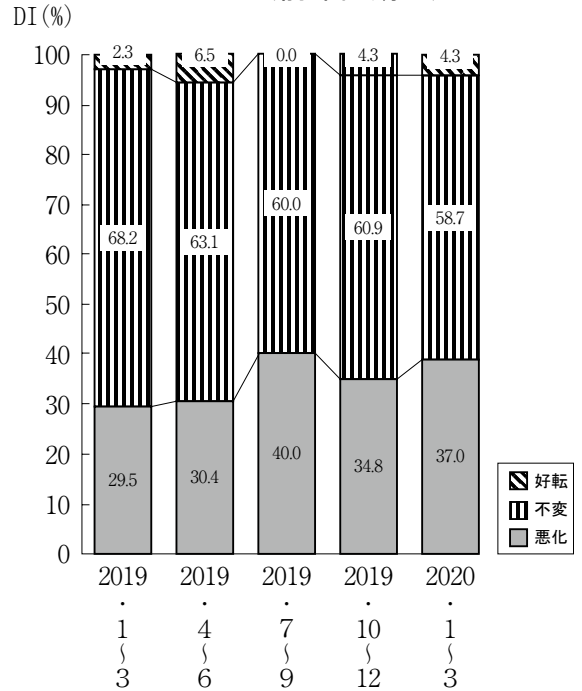


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の4.3%（前期4.3%）で横ばい、「悪化」と回答した企業は今期37.0%（前期34.8%）と2.2ポイント増加した。

その結果、採算DIは今期△32.7（前期△30.5）で前期より△2.2ポイント悪化した。

**図 4-3 採算の状況
（前年同期比）**



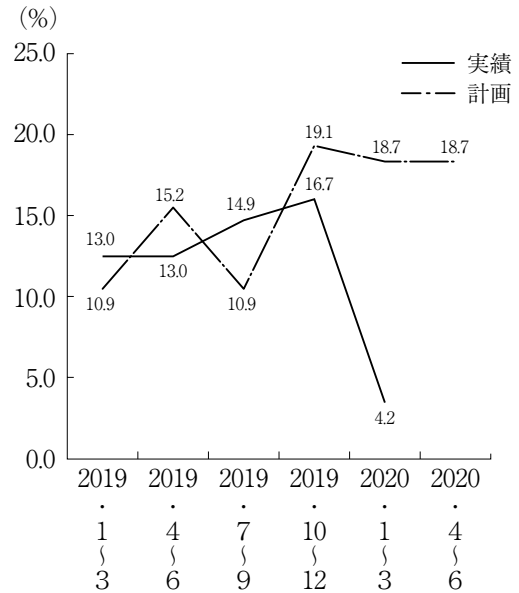
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は全体の4.2%（前期16.7%）で、前期より△12.5ポイント減少した。

その設備内容は、土地、サービスであった。

来期に設備計画している企業割合は全体の18.7%で、その設備内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、その他となっている。

図 4-4 設備投資の状況

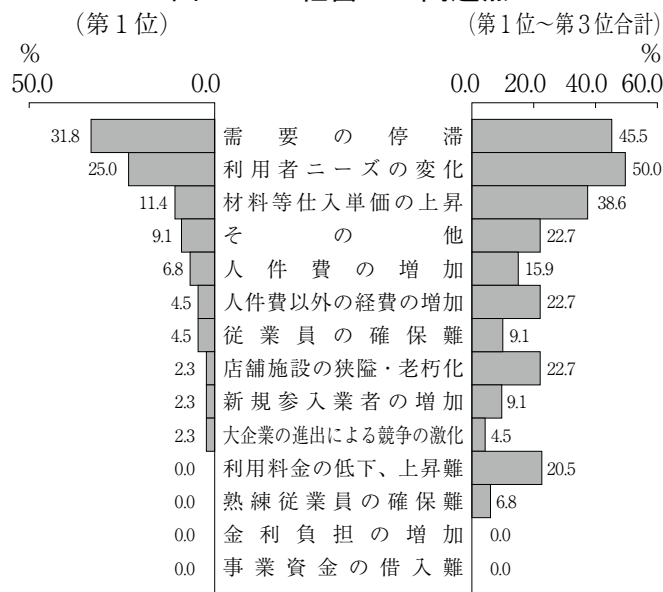


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「需要の停滞」が31.8%で、次いで「利用者ニーズの変化」が25.0%、「材料等仕入単価の上昇」が11.4%が続いた。

重要度第1位から第3位合計では「利用者ニーズの変化」が50.0%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「需要の停滞」が45.5%、「材料等仕入単価の上昇」が38.6%が続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

前期と今期の比較において、売上(収入)DIは全国、東北で悪化、宮城で横ばいであった。その悪化度は全国、東北の順であった。

採算DIでは、全区分で悪化した。

その悪化度は全国、東北、宮城の順であった。

本県回答事業所からは「1年で最も忙しい歓送迎宴会の時期の新型コロナウイルス感染問題で、先行きが不安」(飲食業)や「新型コロナウイルスの影響で多大な売り上げ低下となり、これからの事業展開がとても不安」(観光バス事業)などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

